

保管用

# Panasonic®

## 取扱説明書

PiPit調光シリーズLED器具/コントローラ・通信補助器用 設定・操作リモコン  
ピピットプラス

# PiPit+ハンディライコン

品番：NK23091

同梱品

- 専用ホルダ
- 専用ホルダ 取付け用木ねじ (2本)
- 単4形アルカリ乾電池 (2個)
- 赤外線遮光カバー

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- 適合商品は PiPit+ハンディライコンの承認図でご確認ください。

## 安全上のご注意

必ずお守りください

### 警告



■ 乾電池をショートさせたり、火中に投入しない  
発熱・破裂によるけがの原因となります。

■ 新しい乾電池と古い乾電池を混ぜたり指定以外の乾電池を使用しない  
液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、けがの原因となります。

- 万一、液もれしたときは・・・
- 液が手や衣服に付着したときは、水でよく洗い流してください。
  - 目に入ったときは、失明のおそれがあります。目をこすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、医師にご相談ください。

## 使用上のご注意

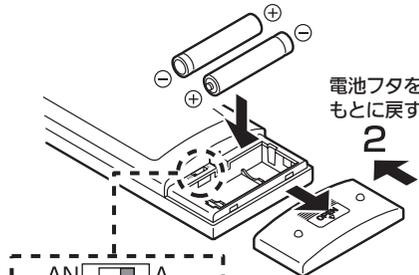
- ・ 分解したり、修理、改造をしない。また、落としたり、水をかけたりしない。故障や破損の原因になります。
- ・ PiPit+ハンディライコンを長時間使用しない場合や、乾電池を使い切ったときは、乾電池を PiPit+ハンディライコンから取り出す。長期間放置すると、電池が液もれを起こす場合があります。
- ・ PiPit+ハンディライコンの液晶表示がうすくなり操作がしにくくなったときは、お早めに乾電池を交換してください。
- ・ 器具と PiPit+ハンディライコンとの間に信号をさえぎるものがあると動作しません。
- ・ 赤外線送信部が極端にランプに近すぎる場合や、太陽光などの赤外線を多く含む光が器具受信部に直接入射する場合、または周囲温度が低い場合は、動作しにくいことがあります。

## 電池の入れかた

- PiPit+ハンディライコンに電池を入れてください。

1 電池フタをはずし、乾電池を入れる

電池の⊕⊖は、正しく入れてください。



AN A  
Aに設定してください。

## はじめに

- PiPit+ハンディライコンと組み合わせる商品によって、設定のしかたが異なります。お使いの商品に応じて、設定・操作を行ってください。

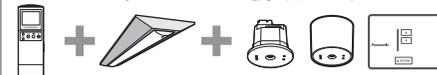
組み合わせ商品区分

■ PiPit 調光シリーズLED器具を直接操作する場合



本書の「各部の名前とはたらき」以降を参照し、設定や操作を行ってください。

■ PiPit 調光シリーズLED器具と各種コントローラを組み合わせて使用する場合



各種コントローラの設定・操作方法については、各商品に付属の説明書を参照してください。

※その他の組み合わせ

■ 通信補助器と組み合わせて使用する場合

通信補助器の設定・操作方法については、各商品に付属の説明書を参照してください。

■ PiPit 調光シリーズLED器具を直接操作してご使用中に、後から各種コントローラと組み合わせて使用する場合

PiPit 調光シリーズLED器具の設定内容を工場出荷状態に戻します。「工場出荷時への戻しかた」を参照してください。

各種コントローラの設定・操作方法については、商品に付属の説明書を参照してください。

これ以降は PiPit 調光シリーズLED器具を直接操作する場合の操作・説明になります。

## 各部の名前とはたらき

- フタを閉じた状態 (運転操作時)

赤外線送信部

自動ボタン

明るさ設定で設定した明るさで点灯します。「明るさ設定のしかた」参照

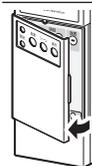
手動調光ボタン

器具の明るさを手動で操作できます。

シーンボタン

下記のシーンを再生します。  
シーン 1: 下限点灯  
シーン 2: 明るさ 50% 点灯  
シーン 3: 明るさ 70% 点灯 (シーンの内容を変更することはできません)

フタ



フタを閉じると、PiPit+ハンディライコンの液晶表示部の内容がクリアされます。

液晶表示部

消灯ボタン

- フタを開いた状態 (設定時)

項目ボタン

設定の時に使います。

数値ボタン

設定の時に使います。

RESET キー

ペン先などで押すと PiPit+ハンディライコンが工場出荷状態になります。(器具の設定はそのままです)

(※) DEMO キー

送信ボタン

設定内容を器具に送ります。

確認ボタン

運転中の動作状態を確認します。設定した各内容を確認します。

(※) 起動方式ボタン

(※) 明るさ再現ボタン

(※) 明るさ記憶ボタン

(※) オプションボタン

カスタムファンクションボタン

LED表示部 (緑色)  
各種ボタンを押すと緑色ランプが点灯します。

(※) このボタンは使用しません。

## 明るさ設定のしかた

●フタを開いた状態で操作します。必ず設定してください

自動運転で使う時の明るさ（調光率）を設定します。設定後はその明るさを保持します。

- 『カスタムファンクションボタン』を押す
- 『数値ボタン』でお好みの調光率に合わせる  
※器具の調光率範囲内で設定できます。範囲外で設定した場合は、下限の明るさで点灯します。  
上がる ▲ 数値 下がる ▼  
数値ボタン (70%で設定の場合)
- 器具に向け『送信ボタン』を押す  
器具が指定した明るさで点灯します。

## 運転操作のしかた

●フタを閉じた状態で操作します。

各操作はあとで押すボタン操作が優先されます。ただし、適合商品や組み合わせるコントローラの種類によっては操作できない場合があります。

- 手動操作で使う**  
操作にしたがった明るさで点灯状態を保持します。  
器具に向け『調光ボタン』を押す  
●明るさ設定で設定した明るさによらず操作できます。
- 自動運転で使う**  
明るさ設定で設定した明るさにしたいが、器具を点灯させます。  
器具に向け『自動ボタン』を押す
- シーン運転で使う**  
プリセットされたシーンを再生します。  
器具に向け『シーンボタン』を押す
- 消灯する**  
器具に向け『消灯ボタン』を押す

## 工場出荷時への戻しかた

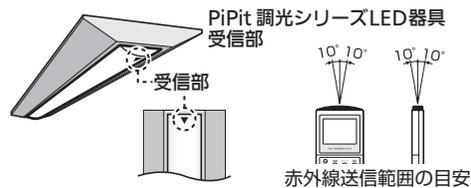
●フタを開いた状態で操作します。

- 『カスタムファンクションボタン』を押す
- 『項目ボタン』で画面番号『12』を選択
- 対象の器具に向け『送信ボタン』を押す

設定が完了すると、器具がいったん下限点灯した後に100%点灯します。

## PiPit+ハンディライコンの操作範囲

●PiPit+ハンディライコンをPiPit 調光シリーズLED器具の受信部に向けて操作してください。  
※PiPit+ハンディライコンと器具の間に遮蔽物を設けないでください。器具が操作できない原因となります。



※隣接する照明器具と一緒に設定・動作してしまう場合は、付属の「赤外線遮光カバー」を装着してPiPit+ハンディライコンの操作をお勧めします。（「赤外線遮光カバーの使いかた」参照）

## 赤外線遮光カバーの使いかた

●PiPit+ハンディライコンの赤外線送信範囲を絞って、器具個別の操作をしやすくします。

赤外線遮光カバーの組み立てかた

- 1 ミシン目 a 4か所を折る

- 2 ミシン目 b 2か所を折る
- 3 つめ c 4か所を、つめ d 6か所の間にはめこむ

PiPit+ハンディライコンへの装着のしかた  
組み立てた赤外線遮光カバーをPiPit+ハンディライコンに装着する  
奥まで挿入する必要はありません。

## 困ったとき

こんなとき	確認項目	処置方法
PiPit+ハンディライコンで器具の明るさが変化しない	各種コントローラと器具との組み合わせで使用していませんか？ PiPit+ハンディライコンの通信範囲外から操作していませんか？	各種コントローラとの組み合わせでご使用の器具は、PiPit+ハンディライコンでは操作できません。工場出荷時に戻した後（「工場出荷時への戻しかた」参照）明るさ設定を行ってください。（「明るさ設定のしかた」参照） 器具の真下から設定・操作を行ってください。
カスタムファンクションボタンで所定の画面番号が出てこない	電池ボックス内の切替スイッチが「AN」側になっていませんか？	切替スイッチを「A」側に切り替えてください。（「電池の入れかた」参照）
周辺の照明器具も一緒に明るさが変化する	器具が高天井に取り付けられていたり密集して設置されていませんか？	PiPit+ハンディライコンを器具に近づけて操作してください。また、赤外線遮光カバーを使用してください。（「赤外線遮光カバーの使いかた」参照）
電源を切る前の状態で器具が点灯しない	手動操作、シーン運転で使用していませんか？	器具をPiPit+ハンディライコンで手動操作、シーン運転した内容は記憶されません。「明るさ設定のしかた」を参照のうえ、設定を行ってください。

## お手入れについて

- 石けん水に浸した布をよく絞ってから拭いてください。
- シンナーやベンジンやアルコールなどの揮発性の溶剤、みがき粉は使用しないでください。変質・変色・傷みの原因となります。